

じゅんぴかい ぶかい 準備会から部会へ

とうじしゃぶかいじゅんぴかい
当事者部会準備会

すいたちいきじりつしえんきょうぎかい とうじしゃぶかい いち
吹田市地域自立支援協議会における当事者部会の位置づけ

わたし ぬ わたし き しょうがいしゃけんりじょうやく
「私たち抜きに私たちのことを決めないで」という障害者権利条約の

するーがん わたし しょうがいたうじしゃ ひとり けんり しゅたいしゃ
スローガンのもと、私たち障害当事者は一人ひとりが権利の主体者として、

とうじしゃふざい ふくしせさく あびーる とうじしゃぶかい
当事者不在の福祉施策にならないようにアピールをしてきました。当事者部会

じゅんぴかい い か じゅんぴかい い べんと とお しゃかいしげん かか じょうほう
準備会（以下「準備会」）としてもイベントを通して社会資源に係わる情報の

はっしん きょうゆうとう せっきよくてき おこな けいぞく しょうがいしやおよ
発信や共有等を積極的に行いましたが、これからも継続して障害者及び

しょうがいじ ふくし さーびす かくじゅう しつ こうじょう もと とうじしゃめせん
障害児の福祉サービスの拡充や質の向上を求めていくとともに、当事者目線

た ちいきしゃかい じつげん きよ とうじしゃ そつちよく
に立った地域社会づくりの実現に寄与していくためには当事者としての率直

いけん かんけいきかん とど ひつよう かん
な意見を関係機関に届けていく必要があると感じました。

こんご じゅんぴかい かつどう とお つちか けいけん い じゅんぴかいいいん
今後は準備会での活動を通して培った経験を活かしながら、準備会委員が

とうじしゃぶかい い か ぶかい しゅたい どうよう とうじしゃ
当事者部会（以下「部会」）の主体となって、これまでと同様に当事者である

つよ い にちじょうせいかつおよ しゃかいせいかつぜんばん ひつよう じょうほう
ことの強みを活かし、日常生活及び社会生活全般にわたる必要な情報の

ていきょう はっしん ちいきしゃかい じつげん とうじしゃ に ー ざ おう ふくし
提供および発信、地域社会づくりの実現、当事者のニーズに応じた福祉

さーびす じゅうじつとう とうじしゃ しょうがいしゃ しゃかいさんか さんかく こうちく
サービスの充実等、当事者だからこそできる障害者の社会参加や参画を構築

しょうがいたうじしゃしゅたい ぶかい
していける障害当事者主体の部会としたい。

資料5

目的

障害種別を越えた障害当事者間の交流を深めること及び障害の有無に

関係なく、分け隔てのない共生社会の実現を目指し、地域社会との交流を

深めること。部会として社会参加・社会生活の質の向上への情報の提供、

提案をすることである。

目的に対する具体的な取り組み（案）

① 障害種別について

委員構成として身体・知的・精神・難病等、障害の種別に分け隔てること

ない当事者がいることが望ましい。

② 障害当事者間の交流について

しゃべり場や食事会などの定期的なイベントの開催

③ 当事者に係る法律や制度について

研修会や学習会を行うことにより、当事者や支援者などのスキルアップ

を目指す。

④ 地域との交流について

各地域の自治会や小中学校との関わりを通して理解を深めていく。

資料5

えきすぽしてい ぼりはふりー ちようさ てんいん たいおう せいしんしょうがい かた
エキスポシティでのバリアフリー調査や店員の対応など、精神障害の方を

むか ちゆうしん おこな せいしんしょうがい めせん ふだん こま よ
迎え中心に行い、精神障害からの目線で普段の困りごとや良いところが

あら はっけん とうじしゃかん さんかしゃぜんいん りかい あ
新たな発見となって、当事者間だけでなく参加者全員で理解し合えた。

③ こんねんど かつどうけいかくあん がつ ちいきせいかつ かだいけんとう がくしゅう
今年度の活動計画案については 12月に地域生活の課題検討についての学習

かい よてい しょうじじょう かいさい しない しょうがい
会を予定していたが、諸事情により開催できなかった。しかし、市内の障害

しゃだんたい すいた ぼりあふりー こうつうあくせす かい おこな
者団体「吹田のバリアフリー・交通アクセスをめざす会」が行った

ゆにばーさるまなー けんしゅうかい さんか とうじしゃ たい
ユニバーサルマナーについての研修会に参加するなどして、当事者に対す

せつぐう しょうがいしゃきべつかいしょうほう じれいとう まな
る接遇や障害者差別解消法についての事例等を学んだ。

④ げんざい かつどう なか
現在の活動の中ではできていない。

⑤ ①と かさ げんざい しょうがいしゅべつ かたよ
重なることではあるが、現在、障害種別に偏りはあるものの、

いべんと しょうがい かた こうりゅう なか で いけん じっさい
イベントなどでいろいろな障害の方たちと交流の中で出た意見や実際に

た しょうがいしゅべつ かた いけん うかが しょうがい ちが とうじしゃ
他の障害種別の方たちの意見を伺うことによって、障害が違っても当事者の

いけん だ とく おこな じゅんぴかい だんかい た
意見として出せるように取り組みを行っている。準備会の段階ではあるが、他

ぶかい しつもん いけん もと たいおう
の部会からの質問や意見を求められても対応できている。

✓ 活動報告

よきん もんだい けいぞくてきかだい さくねんどまつ ぜんたいかい ほうこく
予算の問題が継続的課題としてあるが、おおむね昨年度末の全体会で報告した

けいかくどお じっし がつ だい かいこうりゅうかい よてい
計画通りに実施することができた。10月に第2回交流会として予定していた

いべんと ないよう はつ ところ たい
イベント内容については初の試みで「みんなのまちのしらべ隊」という

とうじしゃめせん ぼりあふりー ちようさ けつか いけんこうかんかい おこな
当事者目線でのバリアフリー調査およびその結果の意見交換会を行った。

資料5

委員構成は前年と変わっていないが、しゃべり場をはじめ、こういった

イベントを着実に重ねていくことで交流する機会が増え、委員としての

仲間入りに興味を持ちはじめてもらえてきている。

✓ 今後の活動目標

現委員構成のままで来年度から正式に部会として活動を始めたとしても、

障害種別に関しては3障害および難病等の内部障害等を含めた当事者が

揃っていないくとも意見を集約できる場を創り上げてきているので、今後も

このような活動を継続し、幅広い障害者の方たちの交流の場として広げて

いきながら、委員でなくともいろいろな障害種別の方たちが抱えている思いを

当事者として発信していけるようにしていきたい。しかし、部会としては、

今後委員は再任を除き公募での選出としていきたい意向がある。その時には

市内の当事者の中から公募を募っていくこととしたい。

また、障害種別を超え、今まで以上に当事者等の交流の場を広げるために、

市内の障害者団体との交流を持つことや、イベントの内容についても目的や

課題を明確にし、障害者（児）に関わる問題の解決や社会参加への助言、提案

をしていける体制を構築していく。

◆ 部会での課題

・今後、委員を公募にする場合は障害種別を問わず、かつ男女比率に偏りが出

ないようになるのが理想ではあるが、それだけの意欲を持って委員になりたい

という人材を公募するにあたっては、行政の協力は不可欠である。

・障害を持つ当事者が部会の委員を務めるにあたって生じる問題の解決が

必要である。それは障害があるがゆえの問題なのです。例えば、現委員の中に

も会社に所属して勤務している者がおり、部会の会議やイベントに出席する

ためには仕事を休まざるを得ない実情があります。自力または単独で会議や

イベントの場に参加できない場合は、障害福祉サービスにある移動支援の制度

を利用して、ガイドヘルパーが同行することになります。しかし、業務時間中

に移動支援の制度を利用することは不可とされています。障害のない人が委員

を務める場合、会議等は仕事上の業務の一環として出席されている方が多いと

思いますが、介助が必要な当事者にはそれができないので、仕事を休むことに

なり、その日の職場からの給与は発生しなくなるうえにヘルパーの交通費等の

負担もしなければならぬため、委員になることによって出費が増えるという

状況になるのです。当事者部会として先進的な取り組みを行っている堺市や

茨木市では、この問題を回避するために当事者委員には交通費も含めた報酬が

支払われています。(茨木市の場合は1回2,000円)意欲的に参加する委員に

対しては、一定の報酬が支払われることが望ましい。

資料5

当事者の部会という特殊な性格上、資料を準備するにあたっては合理的配慮が

必要となります。すべての資料にルビが必要となりますし、点字資料を作成

する必要もあります。また、コミュニケーション保障として手話通訳の配置も

必要不可欠だが、現状では一定額を各委員の持ち出しで行っており、イベント

時のボランティア保険加入料や参加費などは参加者から徴収してきたもの

もあります。今後は研修会等での講師の謝金捻出も考えられる中、必要経費

等の予算の確保を願いたい。

◇ まとめ

これまで述べてきたように、準備会での活動を通して一定の成果と今後に向け

た課題がある程度見えてきたように思う。「分け隔てのない共生社会の実現を

目指し、地域との交流を深めること」を実現していくためには、部会での活動

に一定額の予算として資料等準備の費用やイベント開催時に伴う費用また、

委員への交通費を含めた報酬等を今後の自立支援協議会の課題として、是非

ご検討いただきたい。

平成29年2月6日

吹田市地域自立支援協議会 当事者部会準備会

専門部会長 赤尾 広明